

GRADE を適用または利用したと言えるための基準

HJS, edited by GG and ADO v 20091021 updated v20160405 HJS

1. エビデンスの確実性(エビデンスの質 (quality of evidence)としても知られている) は、GRADE Working Group が採用する定義により、一貫して定義すべきである。
2. エビデンスの確実性を評価するための各 GRADE ドメインを、用語の違いがあるにしても、明確に記述すべきである。
3. 各重要なアウトカムの全体的なエビデンスの確実性(overall certainty)を、4段階または3段階 (例: 「高 high」、「中 moderate」、「低 low」/「非常に低 very low」)、にて、GRADE Working Group が採用する定義に合致した各段階の定義に基づき、評価すべきである。
4. エビデンスの要約とエビデンスから決断の基準(evidence to decision criteria)は、エビデンスの確実性と推奨の強さに基づいて判断すべきである。理想的には、エビデンスの確実性の評価にはエビデンス・プロファイルを使用すべきであり、また、エビデンス・プロファイルはシステマティックレビューに基づくべきである。少なくとも、評価されたエビデンス、ならびにそのエビデンスの同定や評価に使用した手法を明確に記述すべきである。
5. 推奨または決断の強さと方向を決定するためには各 GRADE 基準について明確に考慮すべきである。理想的には、検討された研究エビデンス、追加の考慮事項や判断について透明性を高く記録するために、GRADE の evidence to decision フレームワークを使うべきである。
6. 推奨の強さは、2 つのカテゴリ(選択を支持、または反対)を使って、各カテゴリについて GRADE Working Group が採用する定義に合致する(用語の違いがあるにしても)「強い」または「弱い/条件付き」の定義に従って評価すべきである。

GRADE working group によって作成された本基準は、2016年4月に改訂されて公開されたものです。

http://www.gradeworkinggroup.org/docs/Criteria_for_using_GRADE_2016-04-05.pdf

平成 28 年 11 月 29 日

相原